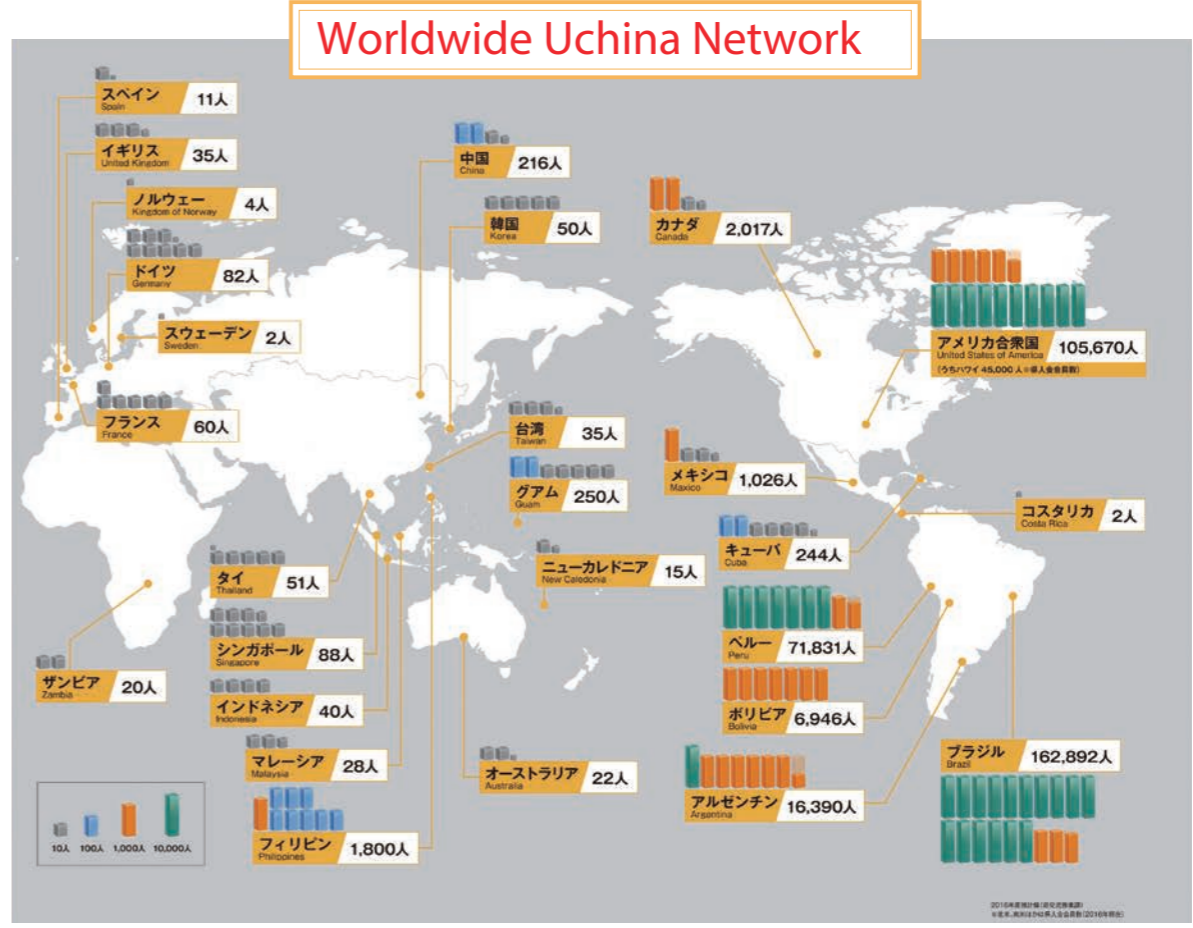


「世界のウチナンチュの日」って何？



世界に広がるウチナンチュ分布

県では、5年に一度「世界のウチナンチュ大会」を開催しており、かつての海外移民子弟である県系の方が多く参加しています。平成28年に開催された第6回大会には海外から7千人を超える参加者がありました。

沖縄からの移民は、ハワイや地球の裏側である中南米に多くいます。移民先で頑張って開拓地を広げ、地図上に「オキナワ」という地名がついている場所もあるんですよ。

最初の移民が海外に到着してから約120年が経過しましたが、現地には沖縄には一度も来たことがないけれど、昔ながらのウチナーグチを話し、三線や琉舞が得意な方がたくさんいます。そして、名字についてもペルーの「安富祖さん」、ボリビアの「大田さん」、アルゼンチンの「仲宗根さん」のように、沖縄の名が残っている方も多いいです。彼らの多くは、沖縄のことが大好きで、沖縄にルーツがあることを誇りに思っています。

また、近年では県系人ではない



ブラジル沖縄フェスの様子

が「沖縄が大好き」という方が増えてきました。沖縄の持つ魅力が、国や地域を越えて多くの人々に伝わり、そのネットワークは世界中に広がっています。

県では、そのような世界のウチナーネットワークを継承し、発展していきたいという願いを込めて、10月30日を「世界のウチナンチュの日」として制定しました。

ウチナンチュは、世界中にどれくらいいるの？

世界には約42万人のウチナンチュがいると言われています。沖縄から海外への移民の歴史は長く、1900年にハワイに到着した26人が最初です。その後、中南米、北米、東南アジア等、多くの国へ渡りました。移民が多かったのは当時の沖縄の厳しい経済事情が根底にはあり、戦後に沖縄の経済が発展するに連れ減少していき、日本復帰前頃からほとんど見られなくなっています。



ボリビア沖縄開拓地の様子

海外に移住した県民は、戦前・戦後における困窮した沖縄経済を救ってくれました。1929年の世界大恐慌時には、海外から沖縄への送金額が県歳入額の66.4%にのぼっています。また、戦後の廃墟となった沖縄には、食料品、日用品、医薬品など多大な救済物資が届きました。こういった海外移民からの支援が、復興する力強い支えとなりました。

ハワイや中南米等の移民先では、現在では四世、五世の時代を迎えています。現地では、純粋なウチナーグチや伝統芸能が残っている地域もある一方で、若者を中心に沖縄に対する意識が薄れ、県人会へ参加する若者が減少している傾向もあります。ウチナーネットワークの継承は、海外においても大きな課題となっています。

一方で、近年ではアジアに移住するウチナンチュも増えてきました。彼らは県系一世、二世が中心となっており、比較的若い世代が多いのが特徴です。また、特にアジアを中心に沖縄を訪れる観光客が急増したことから、沖縄が大好きな人々が着実に増えています。

このようにウチナーネットワークが広がっていくことで、今後沖縄が発展する原動力となることが期待されます。

関連イベントのご紹介

世界のウチナンチュの日である10月30日(水)は、国立劇場おきなわ小劇場において、シンポジウムが開催されます。世界で活躍するウチナンチュの講演や、南米等県系人留学生によるトークイベント等を予定しています。実際に世界のウチナーネットワークに触れるチャンスです。ぜひご参加ください！



移民劇の様子

また、11月4日(月※祝日)には、同じく国立劇場おきなわにて、移民の歴史に関する演劇を開催します。宜野座村出身で、ペルーにて数々の苦難を乗り越えて成功した「伊芸銀勇」氏の生い立ちを描いた劇であり、当時の状況を理解できると思います。

皆さんはFacebookを使っていますか？世界各地の県人会でもアカウントを作成し、積極的に情報発信をしています。ハワイ、ブラジル、ボリビア、北米など色々な県人会の活動を見ることが出来ますので、ぜひ「Okinawa Kenjinkai」を検索してみてください。

なお県では、Facebookのハッシュタグ(#)を活用し、投稿記事に「#世界のウチナンチュ」をつけて公開してもらおう取り組みを進めています。この活動により、沖縄在住の皆さんも含めて世界のウチナーネットワークがSNS上でつながる仕組みづくりを目指していますので、ぜひご参加ください！

いっしょ！
#世界のウチナンチュ

問い合わせ 交流推進課 電話:098-866-2479 FAX:098-866-2960